

第3回泉南市総合計画審議会 会議録

日時：令和4年8月23日（火）13：00～

場所：泉南市役所 2階 大会議室

1 開会

2 案件

総合計画（基本構想）（案）について

3 その他

4 閉会

【出席委員】

和泉委員、北村委員、上中委員、片木委員、上山委員、土井委員、道場委員、松本委員、川田委員、中澤委員、前川委員、山中委員

【欠席委員】

若林委員、奥委員

※順不同

1 開会

事務局：定刻となりましたので第3回泉南市総合計画審議会を開催します。委員の皆様には公私ともにご多忙の中ご出席を賜りありがとうございます。本日の出席委員は12名で、総合計画審議会規則第7条第2項の規定により本審議会が成立していることをご報告します。

（資料の確認）

審議会規則第7条第1項の規定により議長は会長が務めることとなっていますので、和泉会長に進行をお願いします。

2 案件

総合計画（基本構想）（案）について

会長：まずは資料の修正点について事務局より説明をお願いします。

【事務局より、資料3に基づき修正点の説明】

会 長：ただ今の説明に関しましてご意見等ございますか。

(意見なし)

それでは本日の案件に入りたいと思いますが、おさらいしますと基本構想は総合計画の一番上にあたるまちづくりの方向性を示す大きなものです。その下に細かな内容の基本計画があり、さらに下の実施計画では予算等の具体的な話が入ってきます。事務局の方針であり私の考え方でもありますが、皆様には市民目線で細かな部分も含めてご意見を頂戴したいと思います。ただ、いただいたご意見をそのまま基本構想に文章として反映することは難しいとお含みおきください。その代わり、個々の意見は会議録として大切に残します。これまでのご意見でも反映されているものもあります。21ページの視点3や28ページの分野別政策2の「市内事業者への支援の充実」同じく28ページの分野別政策3の「多様化・凶悪化する犯罪や消費者問題、交通事故などから一人ひとりの生命と暮らしを守るため、市民、地域、行政の連携による安全・安心なまちづくりを推進します」という文言がそれにあたります。基本構想では大きな文言で皆様のご意見を吸収していく形になります。それでは22ページから議論していきたいと思います。「これからの泉南市が目指すまちづくりの軸」には先ほど事務局から説明があったとおり新市長の方針が反映されています。その下の「10年後の将来像」についてはどの案がよいか考えてきてくださいと宿題を出していました。いかがでしょうか。

北村委員：はじめに総合計画と総合戦略の関係、位置づけについて確認したいと思います。

事務局：総合計画は10年先を見据えたまちづくりということで総括的なものだと思っています。総合戦略は特化したプロジェクトを5年間で推進していくものです。位置づけとしては総合計画の中に総合戦略があると思います。

北村委員：総合戦略で言っていることが総合計画に含まれると捉えてよいのですか。

事務局：総合戦略の文言等すべてを網羅しているわけではありませんが、総合計画で目指すまちづくりを実現する一つの手段としての戦略的な取組をまとめたものと考えています。

北村委員：「10年後の将来像」として書かれている文言は総合計画のスローガンと捉えてよいのですか。それとも泉南市のスローガンでしょうか。

事務局：市としてこの10年間でどういったまちにするかを言葉で表現するもので、おっしゃるとおりスローガンになるかと思っています。

北村委員：この3案のうちいずれかを泉南市のスローガンとして掲げていくのですか。総合計画のスローガンか、泉南市のスローガンかという位置づけをはっきりさせておかなければならないと思います。

川田委員：22 ページの3案とは違いますが“あなたとともに私らしく生きるまち”としました。“あなた”は家族、友達、ご近所はもちろんのこと泉南市が誇る海や山などの自然も含んでいます。この3案すべてに「幸せ」というキーワードが出ていますが、100人いれば100通りの幸せがあるし文字にすると押しつけられている感じもします。幸せかどうかは誰かに決められるものではありません。今を大切に自分らしく生きていくことの連続が結果的に10年後も住み続けたいまちにつながると思います。

事務局：泉南市のスローガンでありながら総合計画のスローガンでもあるという位置づけになると思います。我々としてはこの10年間で皆様の幸せのお手伝いできればということで将来像の言葉を考えたのですが、川田委員がおっしゃったように幸せの形は人それぞれで受け取り方も十人十色ですし、この言葉はこういう解釈だといった明確なものがありません。総合計画策定に合わせ、スローガンやキャッチフレーズをつけたいとは思っています。

北村委員：あくまでも総合計画の方向性を示す文言という位置づけにしておかなければならないと思います。企業で言えばブランディングにあたるものとなる市のスローガンとは切り分けて考えるべきです。

事務局：総合計画は10年という長いスパンですので、そのときの状況を見極めながら取組については総合戦略や実施計画の中で示すこととなります。

会長：位置づけというところで北村委員から重要な提言がありました。富田林市で観光ビジョン策定に携わったことがあるのですが、10年後の将来像は観光ビジョンとして、市の観光スローガンは別に検討しました。それと同じような考え方で、あくまでも総合計画についての文言であることが基本になると思います。他に考えてきた方はいらっしゃいますか。

松本委員：“未来に誇れる私たちのまち”というのを考えました。先ほど北村委員がおっしゃった総合戦略にもスローガンはあるのですか。

事務局：総合戦略では4つのスローガンを掲げています。

松本委員：そのスローガンを教えてください。第5次のスローガンは「豊かな環境・支えあい、人を大切にする泉南市～みんなで夢を紡ぐ 生活創造都市」ですが、今もその状態になっていません。総合戦略を踏まえながら総合計画を立てる必要性がありませんか。

事務局：第5次で使った表現を踏まえるのもよいし、これから先を見据える表現もよいと思います。3案提示していますが、これ以外にも何かあればご意見をいただきたいと思います。総合戦略のスローガンとしては「にぎわいと交流が生まれるまち」などありますが、すべては思い出せません。

北村委員：3案いずれにも「住み続けたいまち」と入っています。あくまでも今住んでいる人に残ってもらいたいだけで入ってくる人のことを考えていないと思います。「住みたい・住み続けたい」のような表現にしないといけないと思います。第2期総合戦略の愛称は「花笑み・せんなん総合戦略」です。例えば「花笑み・せんなん」をヒントに考えると“花と笑顔があふれるまち”というスローガンが出てきてブランディングが成立します。市職員の方が総合戦略のスローガンを覚えていないということは市民に定着していないのではないのでしょうか。

事務局：私自身、総合戦略のスローガンがすぐに出てこないというぐらいの認識でしかなかったと思います。「花笑み・せんなん」ということでプロモーションをしてきましたが、これを機会にその表現や位置づけも含め皆様に聞いてみたいと思っています。

会長：今の話の流れでは、この場で3案の中から選ぶのは難しいと思いますので今日いただいた意見を参考に再考いたします。次回審議会の冒頭で今日いただいた意見を再整理したものを提示しますので、それをご確認いただきたいと思います。

事務局：スローガンというものを簡単に考えていた節があります。言葉の意味や選定する意義、選んだスローガンに基づいて今後どう取り組むかも踏まえ次回までに再考させていただきます。

片木委員：この3案には「自然」「ぬくもり」「幸せ」とごく一般的な言葉が並んでいますが、泉南市の特色を出していくことを考えれば、もっとインパクトのあるスローガンにする必要があると思います。「花笑み」という言葉が伝わりづらいならそれに代わる言葉を考えてもよいのではないのでしょうか。

会長：今の意見も含めて再考したいと思います。次に23ページから26ページについていかがでしょうか。

上中委員：定住人口の見通しということでこのような人口フレームになっていますが、今後も泉南市単独で頑張れるのか、それとも近隣市町との合併等も踏まえた中で泉南市のまちづくりを考えていくのか、その辺りお聞きしたいと思います。

事務局：単独にこだわっているわけではなく広域連携や公民連携も踏まえています。合併というのは選択肢の一つであり、時代の要請の中でその選択肢を取る可能性もあるかもしれませんが、センシティブな問題も抱えます。施策的には合併という表現はあ

りませんが、この 10 年間に泉南市としてできることとして公共施設の近隣とのシェア等も考えていますので、それに近い広域連携も想定しながら将来像を描きたいと思っています。

北村委員：将来都市構造として連携型集約都市とあり中心都市軸を掲げています。海側と山側をつなげることを考えているのですか。

事務局：こちらはイメージ案になります。コンパクトシティの部分も含め、海と山をつなぐ部分と 4 つの駅を中心にする部分と公共施設が集約されているエリアなどについて庁内で再考しています。改めて次回提示しますが、現在は第 5 次総合計画から引き継ぐ形で海と山をつなぐイメージを持った都市のまちづくりを考えている状況です。

北村委員：アンケート調査結果の 13 ページ、住み続けたくない理由の上位項目に「通勤・通学など交通が不便」「買物など日常生活が不便」とあり、この問題点が解決すれば満足な生活が送れるのではないかと以前指摘しました。15 ページに施策の満足度・重要性の相対的な位置づけが載っていますが、満足度が低く重要性が高いものにインフラ・交通・景観があります。満足度が低く重要性が高いということは、ここを解決すれば市民の不満が解消されると思います。それを踏まえて便利さを向上させる構想はありますか。スローガンの話に戻りますが“便利シティを目指します”と言い切ってしまうと、いろいろなことが変わるような気がします。

事務局：分析結果を活かすことが満足度のアップにつながると思います。満足度が低いというのは市の施策として十分でなかったということなので反省点です。生活の利便性が上がれば必然的に満足度も上がることはわかりますが、実際のところできるかどうかを踏まえつつ考えていきたいと思っています。

会長：26 ページの将来都市構造図は庁内で再考されているということですが、その中で出た意見をご紹介いただけますか。

事務局：市全域に居住エリアがあって人口密度にばらつきもある中、すべての方に満足いただく交通インフラやアクセスを完全に網羅するというのは厳しいのではないかといい意見もあります。これまでの市の投資としても思う以上のリターンがなく進まないということがあったので、例えば海と山をつなぐよりも狭小なエリアで集約し、そこへのアクセスだけを考えればよいのではという意見もあります。効率性と市民の満足度をテーマにし、これまでの取組一辺倒ではなくできることとできないことを分けた上で考えています。この将来都市構造図については都市計画のマスタープランにも出てくるかと思っています。

会長：これまでの審議会ですべての方から海側は便利で山側はそうでもないというお話が出ていましたので、そうであるならば総合計画の中で触れておくべきかと思いました。

北村委員からご意見があったように中心都市軸がひとつのキーになるのではないかと
いうところです。庁内で再考するという事は、別の案をこの審議会でご提案され
る可能性もありますね。この件に関してもう少しご意見を頂戴したいと思います。

松本委員：24 ページに交流人口、関係人口、定住人口が載っています。総合戦略のプロジェク
トに国際的スポーツエリア「SENNAN CAMP」の創造とありますが、それは
交流人口ですよ。交流人口ということでこのキャンプの充実を図れば定住人口に
もつながるのではないかと思います。26 ページの将来都市構造図のイメージ案です
が、都市計画マスタープランにも以前からこの案が載っており、動いていないので
はないですか。公民連携という言葉が出ていますが、どのように考えていますか。
流行りのキーワードを並べているだけで実現性に乏しいと思います。

事務局：総合戦略の「SENNAN CAMP」は交流人口を増やしていく取組です。海浜部
のスポーツ施設が充実しているので、それを活用して国際教育とも連動させてプロ
ジェクト的なことをしようという取組です。直接的に総合計画と結びつくものでは
ないと思っています。ご指摘のとおり 26 ページのイメージ案はずっとこのままで
きています。現在のマスタープランでもこれが中心的な構造図で、ずっとあるとい
うことは何もできていないと言われても仕方ないと思います。キーワードとして流行
りの言葉を入れていますが、実現性が担保できておらず庁内で再考しています。で
きもしないことを市として掲げるのはいかがなものかというところで、どこにウ
ェイトを置くかも含め庁内で再考しています。公民連携の事例として元々は市営のり
んくう公園にPFIを導入し民間企業に整備・運営を任せているということがあり
ますので、こういった形の公民連携を想定しています。公共施設の集約・複合化に
関しても民間からの提案を受け入れる意味で連携という表現を用いています。

会長：先ほど実現性に乏しいというご意見が出ました。総合計画にはそういう側面があり
ますが、その辺りを解消する方法の一つとして優先順位を明確にしていくことが考
えられますし、強弱をつけてもよいと思います。できなかったことはできなかった
と認めた上で今後はこうしていくという流れでよいのではないのでしょうか。構造図
がずっと一緒という話も出ました。反省すべき点もあるでしょうが、次につなげる
ためにもそれはそれとして前を向いてよいと思います。他にはよろしいでしょうか。
では 27 ページから最終 29 ページまでで何かございますか。

川田委員：分野別政策 1 の 4 点目「生まれ育った地域に愛着、誇りを持つ子どもの育成に取り
組みます」に関して、カッコいいおじさん・おばさんや楽しそうにしているおじい
ちゃん・おばあちゃんと日常的に交流できる環境がほしいと思います。人生の先輩
が楽しく生きているということで泉南市は良い所だと子どもたちに映るからです。
学校内での子ども同士のつながりだけでは愛着や誇りを持ちにくいと思います。

事務局：現在も定年退職された方や地域の方に福まちサポーターや、ゆうてみいサポーターになっていただいています。小さな拠点整備ということで地域の中での相談や子どもとの会話をしてもらう取組を一部地域で始めていますので、それらを拡充できるよう努力したいと思います。

会長：川田委員がおっしゃった地域との交流は重要だと思います。人口減少や少子高齢化といった潮流の中で様々なことが分断されている状況が地域にたくさんあります。地域の持続可能性を考えても縦の流れは重要ですので、その辺り表現できるような文言を追加したいと思います。

北村委員：今の「生まれ育った地域に愛着、誇りを持つ子どもの育成」ですが、総合的政策の2点目にも「市民のまちへの愛着や誇り（シビックプライド）などを醸成し～」とあります。これを具体的にどう育成・醸成していくのか気になっています。交流でもよいですが、情報誌で地域の方を紹介するという方法もあります。前回イングリッシュローズガーデンを案内するユーチューバーの話をされていましたが、そういった紹介を市民向けにできればとも思います。泉南市にイングリッシュローズガーデンがあることから、ガーデニングのまちとして盛り上がりつつもおかしくありません。日本最大のイングリッシュローズガーデンだそうですが、市民の方が知っているのか、市として活かしているのかと思います。ホームページや広報紙にもそういう紹介がないのが残念ですし、もったいない気もします。

川田委員：バラの時期になるとローズガーデンの紹介はあるのですが、盛り上がっていないのももったいないと感じています。

北村委員：ガーデニングをする人ばかり集まるまちづくりという設定にできなくはありません。愛着や誇りを持てるようなまちづくりをしたいのであれば、もっと具体的なものを表に出すべきだと思います。

道場委員：人を集めるためには家を建てる土地や働く場所が要と思います。街灯が暗いことが気になります。分野別政策2の3点目に「豊かな海・山などの自然や歴史文化を地域資源として～」とありますが、ロングパークもわいわい村もバラ園も途中で終わっている感じがします。ロングパークはこの間テレビで紹介されていたので行って見たのですが、閑散としていました。全国的に紹介されたのにそれを利用しないのはもったいなく感じます。市として計画的に人を集める企画を立てていただきたいですし、文化を広める活動も頑張っていただければと思います。

事務局：ロングパーク等、既存のコンテンツが閑散としているとは思いません。年間150万人以上が訪れていますし様々なイベントも行っています。賑わうほど賛否両論出てきます。市の事業すべてに合格点をいただくのは難しいですが、力を入れるところに力を入れ、できることをしっかり行っていきたいと思っています。できないことに関

しては必ず違う形でのアプローチを行い、少しでも皆さんの暮らしに寄与できるような取組を考えていきたいですし、そのために分野別政策の中で指針となるものを表現していきたいと思っています。

会 長：分野別政策に細かいことを書くのは難しい面があります。この場で出た意見はどこかに反映できるよう事務局にお願いしたいと思います。他にいかがでしょうか。

中澤委員：地域のお年寄りとの交流の話が出ましたが、泉南市には福祉委員会が各地区にあります。私もそのメンバーですが、小学校とのタイアップを行い4年生にはしめ縄作り、1・2年生には昔遊び、5年生にはランドゴルフを教える形でおじいちゃん・おばあちゃんとのふれあいが盛んです。コロナ禍で2年ほど休んでいましたが、今年は実施しようと話しています。ただ、泉南市の職員の方も教育委員会の方もこの催しを見にきたことがありません。福まちサポーターなどは何をしているのかわからず目立たない状況なので、もう少しPRなどを行って広めてもらい福祉委員会とのつながりを強固にしてほしいと思います。

事務局：行政は情報提供や発信力が弱い部分があります。福まちサポーターの母体となる福祉委員会と行政が組む方がより効果的ですので、そういった意見があったことを今後の取組の方向、指針として職員に伝えようと思います。

前川委員：分野別政策3の3点目に「本市の豊かな自然を守りながら『2050年のカーボンニュートラル』を視野に入れた地球温暖化対策～」と記載されていますが、この政策というのは地球レベル、国家レベル、市町村レベル、個人レベルのいずれもあります。このうちのどれを重点的に取り組んでいくかをはっきりさせないと無力感だけが残ると思います。提案ですが、他市町との連携・協力という言葉も入れてはどうでしょうか。SDGsと言っても結局は何をしてよいかわからないのが実態だと思います。10年計画ですから企業でいえば長期経営計画で、5年レベルの中期経営計画に落とし込み具体化していけば実現するのですが、ここに載っている泉南市という文字を例えば阪南市にすり替えても違和感がありません。泉南市でしかできない、泉南市だからこそできる内容を盛り込めないか、先ほどからそういう思いが募っています。

会 長：一般的な文言になるのはある程度致し方ない面がございますが、その中でもここはというところで泉南市らしさを出すべきというのはおっしゃるとおりだと思います。

川田委員：総合的政策に関連して、イオンとは連携していますか。泉南市とイオンが連携することで買い物難民の問題が解決できるのではないのでしょうか。イオンが運営しているネットスーパーがあるのですが、スマホの操作が苦手な方のために市が何らかの支援をしてくれればと思います。ロングパークの話になりますが、近くにごみ処理場があるため風向きによっては臭く、それがすごく残念です。私たちの意見に対し

て事務局の方が今はこうですと言われるのですが、それだけでなくもっと情報を出していただければと思います。情報の時代ですし、例えば自分たちが思ってもいないような市の活動がSNSで報告されると、それを見た人が拡散してくれるのではないのでしょうか。すぐ言えないこともあるとは思いますが、役所という枠にとらわれず明るい情報発信をお願いしたいと思います。泉南市にいる面白い人の紹介もしていただきたいのですが、広報紙だけに載せても若い人には届きません。SNS等で明るく紹介していただくと若い世代が楽しんで見てくれる気がします。大まかにしか書けない部分もあるでしょうが、たくさんの取組をされているのでそれをうまく発信していただければと思います。

会 長：泉南市に限ったことではありませんが、情報発信できるものとできないものがありそれが行政課題の一つだと思います。“効果的な情報発信に取り組んでいく”というような文言を記述する必要もあると思いつながらお話を伺っていました。

松本委員：分野別政策2「『しごと』を生み出す・にぎわいを創出する」に関連することですが、先日、農業をしている若い人たちと話す機会がありました。もう畑を耕せなくなった高齢者が結構いるそうなのですが、その畑を借りて自分たちが何か作ろうかとは絶対に言わないと話していました。なぜかといえば素直に応じてくれないし後々ややこしくなるからだそうです。代々自分たちが農地を守ってきたものだから他人に触られたくない気持ちはわかりますが、耕すことができずに放置するより誰かに使ってもらう方がよいという考え方の人が少ないと思います。20年前に区画整理の話が出たときも自分の土地は自分で守るということでその話に乗らず、今はそれを後悔している人もいます。時代はどんどん変わるから、その時代に対応できるよう柔軟な頭を持った高齢者にならないとだめだと若い子たちと話して感じました。農業と漁業を大切にしていくと仕事になると思いますし、これからは自給自足も大事です。農業をもっと簡単にできるよう規制緩和してもらえればと思います。

中澤委員：今のお話と関連しますが、有効な土地活用ということで泉南農業塾があるようですので、それをPRすれば農業に携わる方が増えてくるのではないかと思います。

会 長：PRも含めた情報発信が課題だと思います。農業政策の話かもしれませんが、紐解いていくとコミュニケーションの問題に行き着く内容でした。交流というところをもう少しアプローチできるよう意識していく必要があると思います。

上中委員：分野別政策1の最後「歴史・文化を活かしたまちづくりを通じ、文化の質が高い地域づくりを行い、ふるさとや地域への愛着、誇りを持つことができる市民の育成に取り組めます」に関連しますが、国の補助金がありますよね。それをロングパークだけに使っているように思えて仕方ないのですが、地域の伝統文化にも使う計画はあるのでしょうか。

事務局：地方創生推進交付金について、国に採択されたのはロングパークの関連事業ですので、残念ながら内陸部にある歴史・文化のために使うのは難しい面があります。

上中委員：去年、貝塚以南でだんじり祭のやぐら修理に文化庁からかなりの予算が出ました。泉南市はロングパークばかりに注力し、昔からの伝統ある地域の文化に力を入れていないように思います。コロナで2年ほどお祭りもなかったため青年団組織自体が弱体化し、地域に根付いていた伝統文化も廃れています。そういうことにもう少し力を入れてもらわないと楽しみがなくなり、若い人の流出も増えると思います。ロングパークは民間の運営なので民間の努力で集客できるはずですが、そこにお金をたくさん使っていると知ったので、それを昔からのものにも使えないかと尋ねたいと思います。

事務局：お金を使っていることは確かですが、国の交付金です。市としても地域の伝統文化を継承していきたいということで国に提案してチャレンジしたのですが、ロングパーク以外の事業は落とされました。私どもの力不足でもあります。地域の歴史・文化に関しては一般財源を使ってでも残すべき物は残していきたいと思います。この件も庁内で共有してお金がないから何もしないのではなく、できることはしようという舵切りはしていきたいと考えています。

会長：歴史・文化を大切にしていくなちづくりが重要です。良いまちの条件として歴史、現在、未来が共存していることがあります。世代間交流にしても歴史的なものや現代的なものがあることでコミュニケーションが発生しますので、歴史・文化にも力を入れるという意識を総合計画に取り入れるべきかと思います。

上山委員：分野別政策3の最後「下水道など、生活基盤の強靱化や維持管理を計画的・効率的に進め、利便性が高い住まいの環境整備に取り組みます」に関連して、山手にある地名表示についてお聞きしたいと思います。海側は進んでいるのですが、山手はほとんど進んでいません。住民は町名をもっとシンプルにしてほしいと思っているのですが、それについてある程度の方向性を示せませんか。

事務局：住居表示の関係ですが、平成初期から取り組み、ストップしたままです。かなりの労力と財力がかかるということで再開のめども立っていません。こういう意見をいただいたことは庁内で共有しますが、できるかどうかと言われると厳しいと思います。

片木委員：農業人口の減少により生きるか死ぬかという瀬戸際に来ていると思います。それに対する国の具体的な政策も出ていません。今後10年間で真剣に考えていかないと計画がどうのこうの以前の問題で今後の泉南市を左右します。総合計画とはリンクしないかもしれませんが、市の必須対策項目だと思います。

事務局：農業の後継者については高齢化も含め問題だと思っています。細かな政策で力を入れてはいますが、改善させるまでには至っていません。皆さんの意見を集約し、今後の市の施策に役立てていきたいと思っています。

北村委員：農業をしたい人もいるので田舎ほど移住者が増えるという話もあります。それにはコロナが大きく影響しているのですが、きちんとつないであげれば農業をする若者がいないわけではありません。泉南市はそこまで田舎ではないためつなぎにくい面はあるかもしれませんが、きちんとつなぐことが必要です。歴史・文化にしてもどうつないでいくかが重要で、子どもたちに教育しているのかと思います。お祭りが中止になっていますが、地域住民の愛着の核になるものがなくなるともう戻りません。復活させるのは大変です。国から予算をもらえないのでできませんでは困ります。市の将来的な政策として必要なこととしていかないと、国の方針で動いているだけになります。国からのお金に基づき市が末端として動いている形は中央集権でしかなく地方自治になっていません。市の施策に税金を使うことに対する理解を市民に求める必要があります。そうしていかなければ泉南市としてのアイデンティティーがなくなります。中央集権で均一化され、他の自治体と横並びになってしまう。そこから脱却しないことには前回と同じような総合計画、他のまちと同じような総合計画になるのではないかと心配です。

事務局：国の方針に迎合しては地方自治にならないといったご意見をいただきましたが、あくまで法の下での動きで、交付金が出なければ何もしないというわけではありません。国からの支援としてロングパークの事業を採択していただき、そこに多くの人が来るおかげで市の認知度が上がれば必ず投資促進につながるという好循環を導けると考えています。交付金がないからといって他の施策をおざなりにしているわけではなく、少しでも有利な部分を活かしたいと思っています。全員のご理解を得ることは難しいかもしれませんが、この流れは続けていきたいと考えています。

上中委員：各地区に青年団がありますよね。全国青年団連盟というものもあると聞きました。今ある青年団はそれに加入していませんが、組織体系はどのようになっているかわかっていれば教えてください。

事務局：初めて聞きました。うちの地区の青年団は完全に単独で動いています。

上中委員：補助金が出ていると聞いたので、また調べておいてください。

山中委員：若者として発言させていただきます。ロングパークについてネガティブな意見が多いと感じました。でも、泉南市にロングパークができたことは大きいと思います。インスタグラムやTikTokをよく見るのですが、ロングパークの閲覧数も投稿数も伸びています。泉南といえばロングパークしか出てこない感じもするので、何かをするときにはそこに便乗していくしかないと思います。コロナからの2～3年、若者

の間で自然がブームになっています。例えば和歌山の吊り橋や奈良の高原、兵庫の小さな公園に生えているヤシの木などインスタ映えするものがあるからです。ロングパークしかない泉南ですが、そういう物を山の辺りにでもつくればよいと思います。もう1個何かができることで交流人口も増えるのではないのでしょうか。

会 長：若者目線で言うてくださいました。若者目線で市を見て新しいものを発見し、それを広げていく行政的な仕組みがあってもよいかと思います。

土井委員：基本構想の読者としてどういう人を想定しているのか、泉南に長くお住まいの方が、泉南のことを知らない人か、その辺りがわかりづらいと思います。22ページの「強くしなやかなまちづくりを念頭に置き」とはどんなまちづくりを指しているのでしょうか。注釈を入れるなど、わかりやすくしてほしいと思います。23ページの「人口が減少したとしても」はネガティブな感じですが、この文章がなくても文脈はつながります。28ページ、分野別政策2の2点目に「広域的な交通アクセスなどの立地を活かした」とありますが、立地が良いと思っているのでしょうか。「企業誘致や市内事業者への支援」ともありますが、ロングパーク等で企業誘致をした中で市内事業者に十分経済の循環がされていますか。子どもの学習環境についても明記していく必要があると思います。また、他部署の動向を把握した上で総合計画に落とし込んでいくことが重要だと思います。

会 長：細かいことを言うと「等」「など」と漢字表記とひらがな表記の両方がありますので、その辺りも含めて書きぶりについては最終的な調整が必要だと思います。皆様、貴重なご意見ありがとうございました。最終ページまでご確認いただきましたが、22ページ「10年後の将来像」と26ページ「将来都市構造図」は再考されるということです。それでは、案件については以上で終わりにしたいと思います。

3 その他

事務局：本日予定していました審議会後の市内見学は、新型コロナウイルス感染症拡大の状況もあり延期させていただきました。次回、第4回の審議会後に実施できればと考えています。第4回審議会につきましては9月下旬または10月を予定しております。日程調整のご連絡を後日させていただきますので、よろしく申し上げます。

4 閉会

会 長：長時間お疲れ様でございました。これをもちまして第3回泉南市総合計画審議会を閉会させていただきます。ご協力どうもありがとうございました。